

2023年4月15日(土)

老球の細道725号

新年度あれこれ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「生は偶然 死は必然 幸福は自然 不幸は突然 人生色々 四季折々 陽はまた昇る」、私の家のトイレに貼ってある言葉である。毎朝目覚めた朝イチのトイレでこの言葉を読みながら一日のスタートを切る。「生きていてよかった。さあ今日もやるぞ!」と。

四季折々を表すのがこの時期は桜だろう。若い頃はあまり気にならなかったが、人生の残り時間を気にするようになってからは、ぱっと咲いてぱっと散る桜が妙に気になるようになった。退職してからは、人生を終えるまであと何回見れるだろうということで、会津の桜名所の一つ鶴ヶ城の桜を毎年鑑賞するようになった。「あと何回見れるだろう」と1回1回終わりを意識しながら鑑賞する桜はまた格別である。

今年も平日で観光客の少ない日を狙って鶴ヶ城に出かけたが、記録的な暖かさのせいか早々と咲き、早々と散ってしまった。忙しさにかまけて気温の状況判断を誤ってしまった。もっと早く見にいけば良かったと後悔するばかりである。親鸞の有名な言葉を思い出す。

「明日ありと 思う心の あだ桜 夜半に嵐の 吹かぬものかは」

明日でいいという思いからそのチャンスを逃がしてしまう。必ず明日があると思っても何が起るかわからない。桜ばかりでない。「不幸」、ミサイルも突然やってくる。

4月は新学年、新学期がスタートする。身も心もフレッシュな状態で何事にもモチベーションアップする絶好のチャンスである。わが孫息子も小学校デビューし、幼稚園からの友達も誰もいない小学校に単身乗り込んだ。1週間もたたないうちに悪ガキの兆候を満載して学校から帰ってくる。トレーニングと間違えるくらいのランドセルその他を背負いながら登下校する姿を垣間見ると、腰痛持ちの私はうらやましくて仕方がない。「孫よ重荷を背負え。爺よ重荷になるな」の警句が頭をよぎる。

会津バスケットボール協会も新年度の総会が終了し、各カテゴリーでスタンバイした。各チームから代表が出席していたが、思わぬ指導者があいさつに来た。今年度喜多方の松山小学校教諭になった石崎麦さんだった。地元の小、中、高校で活躍し、大学でもバスケットボールを続けて目標の小学校の教員になった。

また坂下ミニの今年度第一回シュートクリニックにおいて、ここでも予期しない出会いがあった。坂下ミニ出身で私が葵高校で教えさせていただいた小磯智史君がクリニックを見に来ていた。彼は今年度西会津小学校教諭となって埼玉から会津に戻って来た。

現在教員の働き方改革の全国的な流れで小中学校の教員が部活動やスポ少活動の指導に関わることは難しい状況にある。しかし、地元で小学校から高校までバスケットを頑張り教員になって戻って来た人たちには、なんとか時間の都合をつけて自分が学んできたバスケットのノウハウ、そして人としての生き方を地元の後輩たちに教えてほしい。

地域変革に必要な人材は「3人の者。若者、よそ者、馬鹿者」。私は馬鹿者になるか……。